

目次

[概要](#)

[前提条件](#)

[要件](#)

[使用するコンポーネント](#)

[表記法](#)

[背景説明](#)

[設定](#)

[関連情報](#)

概要

このドキュメントでは、OROUTED プロシージャを使用して RIP ルーティング アップデートを交換するために、ルータおよびメインフレームで必要な設定例について説明します。OROUTED はメインフレーム上で実行されるプロシージャであり、本質的に UNIX ホスト上で ROUTED デーモンを実行した場合と同じ機能を実行します。OROUTED は OpenEdition/Multiple Virtual Storage (OMVS) のアドレス空間から、または起動タスクとして実行されます。

前提条件

要件

このドキュメントに関する固有の要件はありません。

使用するコンポーネント

この設定は、次のバージョンのソフトウェアとハードウェアを使用して作成およびテストされています。

- Mainframe channel port アダプタ (XCPA) マイクロコード xcpa27-7 の Cisco IOS[®] ソフトウェア リリース 12.1(2)。これはその時にリリースされたコードのバージョンでしたしかしこれらの機能はコードのすべての現在維持された主要なバージョンでサポートする必要があります。
- ルータは PCPA (Parallel Channel Port Adapter) の Cisco 7206 です。

OROUTED は位置を指す環境変数の OMVS アドレス空間のメインフレームのこれら二つのコンフィギュレーション ファイルを、必要とします:

- エクスポート ROUTED_PROFILE=/etc/orouted.profile
- export resolver_conf=/etc/resolv.conf

このドキュメントの情報は、特定のラボ環境にあるデバイスに基づいて作成されたものです。このドキュメントで使用するすべてのデバイスは、クリアな (デフォルト) 設定で作業を開始しています。ネットワークが稼働中の場合は、コマンドが及ぼす潜在的な影響を十分に理解しておく必要があります。

[表記法](#)

ドキュメント表記の詳細は、『[シスコ テクニカル ティップスの表記法](#)』を参照してください。

[背景説明](#)

OROUTED を開始するために、OMVS 内からのこれらのコマンドを発行して下さい:

```
cd /usr/lpp/tcpip/sbin/orouted
```

MVS コンソールで、OROUTED プロセスのプロセス数を見つけるためにこのコマンドを発行できます:

```
d omvs,u=p390
```

注 OROUTED が開始したログオン識別です。

またジョブ コントロール言語 (JCL) によってように開始されたタスク OROUTED プロセスを開始できます。OMVS からそれを開始する場合、OMVS に TCP/IP プロファイル データセットの 520 ポートを変更して下さい。

これらはデータセットの例です:

```
d omvs,u=p390
```

[設定](#)

チャンネル インターフェイス プロセッサ (CIP) ルータ

d omvs,u=p390

[関連情報](#)

- [テクニカルサポートとドキュメント - Cisco Systems](#)